

「豆類の消費啓発に資するための基礎データ収集調査」の概要

(公財)日本豆類協会

●はじめに

我が国の豆類業界は、豆類の消費拡大に向け、これまで豆類に関するイベントの実施、マスメディア、オンラインメディアを通じた豆類の料理や栄養・健康性等についての情報発信、小学生、幼稚園・保育園園児向け食育教材の制作・配布など様々な施策を実施してきました。その一方で、豆類の消費拡大の実態を把握するための基礎データ（豆類の認知度、消費実態等）を収集してこなかったため、様々な消費啓発等の施策の効果の把握や改善策の検討等が十分にはできていない状況にあります。

このため、豆類の種類別認知度や喫食状況、嗜好性、課題などの基礎データ収集（消費者調査）を定期的かつ継続的に実施することにより、豆類の認知度、喫食率の変化や消費実態を定点観察し、その後の消費啓発に関する施策企画の参考資料として蓄積することとしました。そのために、令和6年度を初年度とした「豆類の消費啓発に資するための基礎データ収集調査」を株式会社矢野経済研究所に委託して実施しました。

●調査の方法等

本調査は、全国の消費者を対象にインターネットにより行われました。一次調査と二次調査の二部構成となっており、一次調査ではすべての回答者を対象に豆類（あずき、大納言あずき、ささげ、緑豆、赤いんげん豆、うずら豆・とら豆、白いんげん豆、花豆、えんどう、そら豆、ひよこ豆、レンズ豆）の認知状況や直近6ヶ月以内の喫食状況などを調査しました。また、比較対象のために一部の設問には大豆、落花生を選択肢に加えています。回収数は、24,078サンプルで、回答者の偏りを避けるため、人口推計（総務省、2023年10月1日）に基づき、地域別や年代別数値にウェイトバック値を乗じて補正して集計しました。

二次調査では、一次調査で最近6ヶ月以内にあずき、大納言あずき、ささげの中から1種類以上、それ以外の豆類から1種類以上を喫食したと回答した

人を対象にその喫食実態について深掘り調査を行いました。回収数は1,923サンプルでした。

本稿では、基礎データとなる一次調査の概要について紹介します。

● 1. 認知喫食状況

認知率は、あずき（94%）、そら豆（91%）、えんどう（91%）、大納言あずき（79%）、ひよこ豆（70%）、白いんげん豆（68%）の順で高くなっています。

喫食率は、あずきが最も高く（84%）、次いでえんどうとそら豆も70%を上回っています。一方、白いんげん豆（47%）やひよこ豆（43%）は50%を下回り、認知率の割に食べたことのない人の比率が相対的に高くなっています。

ただし、そら豆とえんどうは、野菜としても流通しているため、回答の際混同されている可能性があります。（図1）

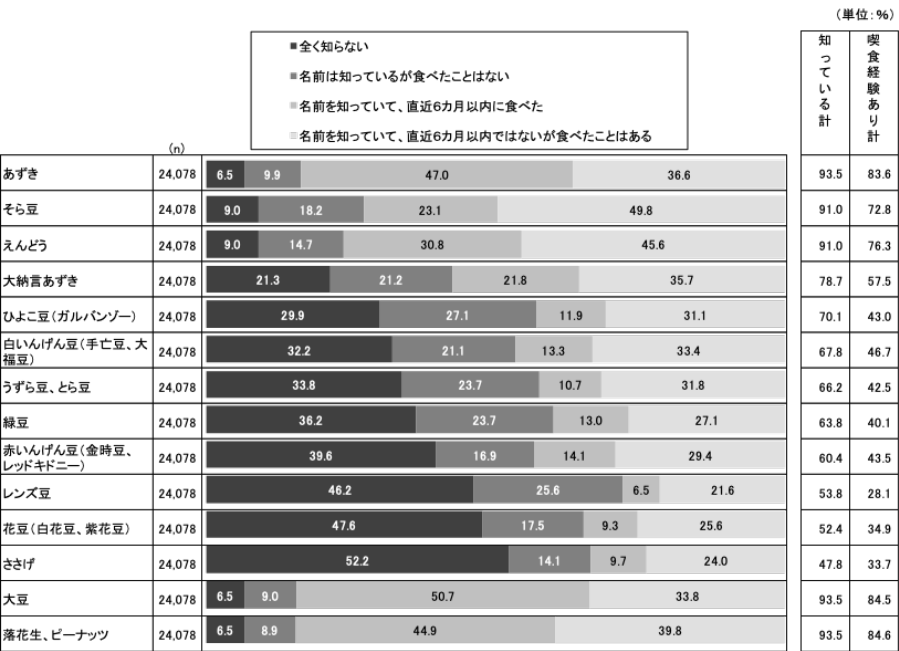


図1

2. 各豆類の嗜好程度

(1) 全体

好き計（「好き」と「どちらかという好き」の合計）の比率が最も高かったのはあずきで56.7%となり、落花生、ピーナッツや大豆を除いた豆類で50%を超えたのはあずきのみでした。続いて大納言あずきが42.7%、えんどうが38.3%、そら豆が36.4%となっています。

花豆、ささげ、レンズ豆は、「食べたことがないので分からない」が半数以上でした。（図2）

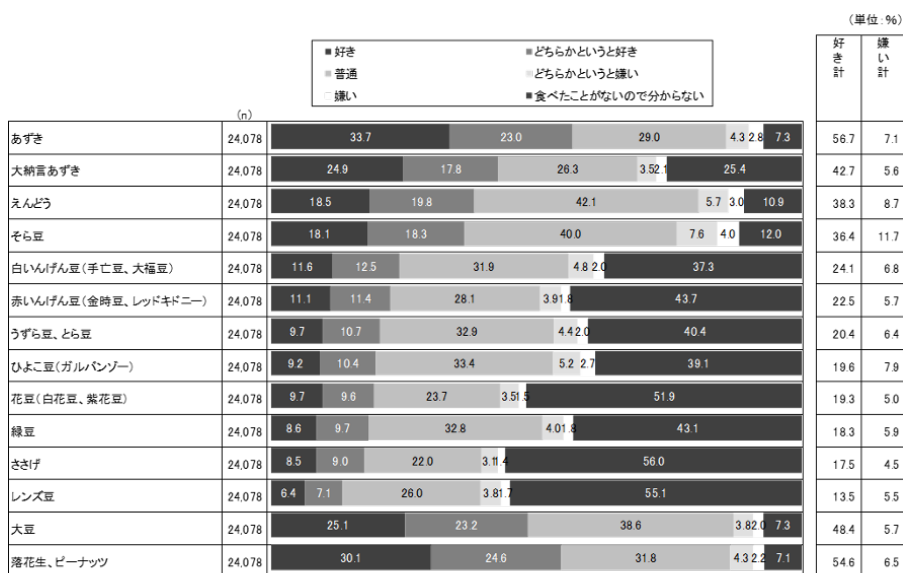


図2

(2) 回答者の属性による動向

あずきの嗜好程度は年代による差があり、50代を境界に嗜好程度が変化するという傾向がみられました。好き計の比率は、全体の61.1%に対し、10～40代は約50%、50代は約60%で平均的、60代は約70%、70代は約80%となっています。また、嫌い計（「嫌い」と「どちらかという嫌い」の合計）の比率は全体の10%弱に対して、10代は約20%、20代は約15%と高く、特に女性でこの傾向が強くなっています。（表1）

表1

(単位: %)

あずき		該当数	好き	どちらか 好き	普通	どちらか 嫌い	嫌い	好き 計	嫌い 計	い好き 計の 差 p tと嫌
全 体		22,326	36.3	24.8	31.2	4.6	3.0	61.1	7.6	53.5
性別	男性	10,734	31.8	25.6	36.0	4.2	2.4	57.4	6.6	50.8
	女性	11,592	40.5	24.1	26.8	5.0	3.6	64.6	8.6	56.0
年代	10代	1,376	31.3	20.3	28.8	10.8	8.9	51.6	19.6	32.0
	20代	2,492	25.6	20.4	39.8	7.8	6.4	46.0	14.2	31.8
	30代	3,381	28.4	22.8	38.8	5.6	4.4	51.2	10.0	41.2
	40代	3,876	31.5	23.4	36.7	5.2	3.2	54.9	8.4	46.5
	50代	4,137	37.1	23.9	33.1	4.0	1.8	61.0	5.9	55.1
	60代	3,855	42.6	28.8	25.4	2.3	0.9	71.3	3.3	68.1
	70代	3,209	52.4	30.5	15.7	1.1	0.3	82.9	1.4	81.5
性年代別	男性10代	475	32.0	19.8	32.6	8.8	6.7	51.8	15.6	36.2
	男性20代	1,093	24.3	20.9	43.4	7.0	4.5	45.2	11.4	33.8
	男性30代	1,674	24.4	23.2	43.4	5.1	3.9	47.6	9.1	38.5
	男性40代	1,886	25.7	22.3	43.8	5.0	3.2	48.0	8.2	39.8
	男性50代	2,005	28.7	24.5	41.1	4.2	1.4	53.3	5.6	47.6
	男性60代	1,925	35.9	30.5	30.1	2.6	0.9	66.4	3.5	62.9
	男性70代	1,676	49.7	32.2	16.6	1.2	0.2	81.9	1.4	80.5
	女性10代	901	31.0	20.5	26.7	11.8	10.0	51.5	21.8	29.7
	女性20代	1,399	26.6	20.0	37.0	8.5	7.9	46.6	16.4	30.2
	女性30代	1,707	32.3	22.4	34.3	6.1	4.8	54.8	10.9	43.9
	女性40代	1,990	37.0	24.4	29.9	5.4	3.2	61.5	8.6	52.8
	女性50代	2,132	44.9	23.4	25.7	3.9	2.2	68.2	6.1	62.1
	女性60代	1,930	49.2	27.0	20.7	2.1	1.0	76.3	3.1	73.2
	女性70代	1,533	55.4	28.6	14.7	1.0	0.3	84.0	1.4	82.6
地域区分	北海道	2,225	36.4	24.7	32.3	4.0	2.7	61.1	6.6	54.5
	東北	2,870	34.4	24.9	33.5	4.5	2.8	59.3	7.2	52.0
	関東	5,248	36.0	25.1	31.1	4.9	3.0	61.0	7.9	53.1
	中部	3,123	35.4	25.5	30.0	5.4	3.7	60.9	9.1	51.8
	近畿	3,176	38.3	24.4	29.8	4.2	3.4	62.7	7.6	55.1
	中四国	2,986	35.5	25.0	32.0	5.0	2.5	60.5	7.5	53.0
	九州沖縄	2,698	38.7	23.9	30.6	3.8	3.1	62.5	6.9	55.7

*塗りつぶしセルは「好き計」-「嫌い計」のポイント(pt)差が全体より5pt以上高い属性を指す。

3. 各豆類を好きな理由

豆の種類を問わず、全体的に「味」が好きな理由の1位であり、「栄養価が高い、健康価値」、「食感」が2～3位となる豆が多くなっています。僅差だが、緑豆、赤いんげん豆、うずら豆・とら豆、花豆、レンズ豆といった食事メニューの喫食が多い豆類では「植物性のタンパク源である」が3位になっています。(図3)

		(単位: %)							
		あずき	大納言あずき	ささげ	緑豆	赤いんげん豆	うずら豆、とら豆	白いんげん豆	
		(n)	13,648	10,282	4,216	4,407	5,420	4,906	5,797
1	味		64.1	63.3	46.2	40.9	50.4	45.0	51.0
2	栄養価が高い、健康価値		21.0	20.0	21.3	26.2	23.7	23.6	22.5
3	食感		18.2	18.2	20.7	17.4	18.1	18.4	18.4
4	植物性のタンパク源である		12.2	13.0	18.6	18.8	18.5	18.9	18.1
5	彩りがきれい		9.1	8.7	14.5	13.9	15.6	9.3	9.1
6	香り		8.8	8.5	6.5	6.5	5.5	5.0	5.4
7	保存性が高い		8.6	7.2	7.5	7.5	8.1	8.4	7.2
8	満腹感が得られやすい		8.0	8.0	5.1	6.9	7.5	7.3	8.5
9	料理のアクセントになる		5.0	4.7	12.6	9.9	10.0	9.1	7.7
10	種類が豊富		3.7	2.9	3.8	4.7	4.0	3.9	3.5
11	経済的である		3.5	2.6	4.9	6.3	3.8	4.4	3.5
12	環境にやさしい		2.5	2.5	3.6	4.4	3.2	3.5	3.2
13	その他		0.3	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2

		花豆	えんどう	そら豆	ひよこ豆	レンズ豆	大豆	落花生、ピーナッツ	
		(n)	4,650	9,214	8,768	4,722	3,243	11,646	13,156
1	味		49.1	48.4	52.6	42.5	39.5	47.9	59.1
2	栄養価が高い、健康価値		22.6	22.8	22.1	24.9	24.9	39.0	25.3
3	食感		18.2	22.2	23.1	22.7	18.1	17.0	30.2
4	植物性のタンパク源である		18.4	15.5	16.4	19.8	20.5	30.2	13.7
5	彩りがきれい		11.8	19.2	13.4	8.0	9.3	4.0	2.8
6	香り		5.7	7.4	8.3	5.4	5.6	5.9	10.9
7	保存性が高い		8.0	4.6	4.7	8.0	8.4	9.5	10.7
8	満腹感が得られやすい		9.0	5.3	7.7	8.5	7.7	10.2	9.2
9	料理のアクセントになる		8.3	13.6	8.5	12.6	11.3	6.0	4.8
10	種類が豊富		3.9	3.5	3.0	3.6	4.2	5.6	3.5
11	経済的である		3.7	4.5	3.6	5.0	5.3	9.5	4.6
12	環境にやさしい		3.4	3.0	2.9	3.7	3.9	3.4	2.1
13	その他		0.1	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2

*「あずき」の降順

図3

4. 各豆類を嫌いな理由

豆の種類を問わず、全体的に「味」が嫌いな理由の1位であり、「食感」が2位となっています。

3位は「香り」が多かったが、それ以外では、赤いんげん豆、うずら豆・とら豆、白いんげん豆、花豆、ひよこ豆、レンズ豆では「馴染みがない」が3位となっています。

「そら豆」は香りを嫌いな理由に挙げる人の比率が高かったですが、野菜と混同している可能性がある点に留意が必要です。

「特に理由はないが、なんとなく」と回答した人が全体的に約20%存在しました。(図4)

		(単位: %)							
		あずき	大納言あずき	さきげ	緑豆	赤いんげん豆	うずら豆、とら豆	白いんげん豆	
	(n)	1,703	1,341	1,076	1,417	1,378	1,534	1,531	
1	味	50.6	46.5	36.2	39.1	40.9	39.0	41.6	
2	食感	27.5	26.0	25.7	19.9	25.3	21.8	24.8	
3	香り	9.3	9.5	10.9	12.9	8.6	9.6	9.3	
4	調理の手間がかかること	6.9	6.7	7.1	5.9	6.7	5.8	6.2	
5	見た目、色が好きではない	5.5	6.1	7.7	6.8	7.9	7.4	7.8	
6	馴染みがない	4.5	6.9	10.1	12.3	10.5	12.2	11.2	
7	アレルギーがある	0.9	1.3	1.0	1.1	0.9	0.8	0.7	
8	その他	0.5	0.5	0.4	0.2	0.2	0.1	0.1	
9	特に理由はないが、なんとなく	19.8	19.6	23.7	23.4	21.8	23.6	21.9	

		花豆	えんどう	そら豆	ひよこ豆	レンズ豆	大豆	落花生、ピーナッツ	
	(n)	1,209	2,086	2,806	1,905	1,316	1,382	1,562	
1	味	38.0	50.9	50.7	44.3	35.6	42.6	43.4	
2	食感	25.1	24.0	24.3	30.4	23.5	23.1	28.3	
3	香り	9.8	12.8	21.2	7.9	9.5	11.4	13.1	
4	調理の手間がかかること	8.7	4.8	6.5	5.9	7.0	6.9	6.5	
5	見た目、色が好きではない	8.0	5.5	5.5	5.7	7.2	5.6	5.6	
6	馴染みがない	11.5	7.1	7.4	12.1	14.3	5.2	5.2	
7	アレルギーがある	0.8	0.6	0.6	0.8	1.1	1.6	4.2	
8	その他	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.4	1.5	
9	特に理由はないが、なんとなく	20.3	19.7	17.7	20.2	23.5	24.2	20.0	

*「あずき」の降順

図4

5. 今後の喫食意向

(1) これまで喫食経験がない人（認知状況と喫食状況に関する質問で、各豆について「全く知らない」または「名前は知っているが食べたことがない」と回答した者）

今後の喫食意向がある人の比率は、豆類の種類を問わず概ね30～40%でした。その中で最も高かったのは大納言あずきで、42.8%が「今後は食べたい」と回答しました。続いて、あずきが38.3%、緑豆が36.6%、レンズ豆が35.9%となっています。

「今後は食べたい」の比率が「今後も食べない」を上回った豆はありませんでした。(図5)

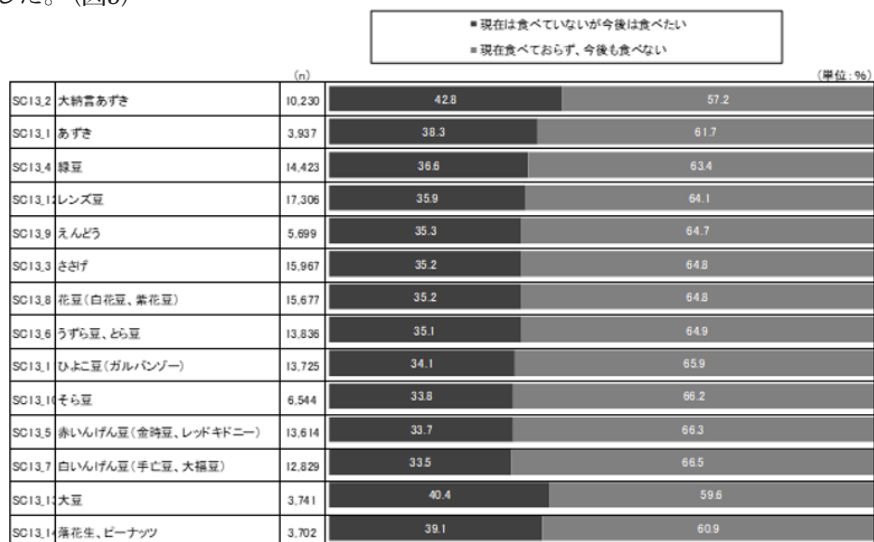


図5

(2) 喫食経験がある人

豆の種類を問わず、概ね70～80％の人が「今後も食べる頻度を維持する」と回答しました。

「今後は食べる頻度を増やす」と「食べる頻度を減らす」のポイント差をみると、甘味として食べられることが多いあずきと大納言あずきは「食べる頻度を増やす」の比率が「食べる頻度を減らす」を上回りましたが（点線枠内）、その他の豆類は下回りました。現在食べている人のうち約8割は「食べる頻度を維持する」と回答したものの、「食べる頻度を減らす」と「食べる頻度を増やす」では前者を回答した人がやや多い結果となっています。（図6）

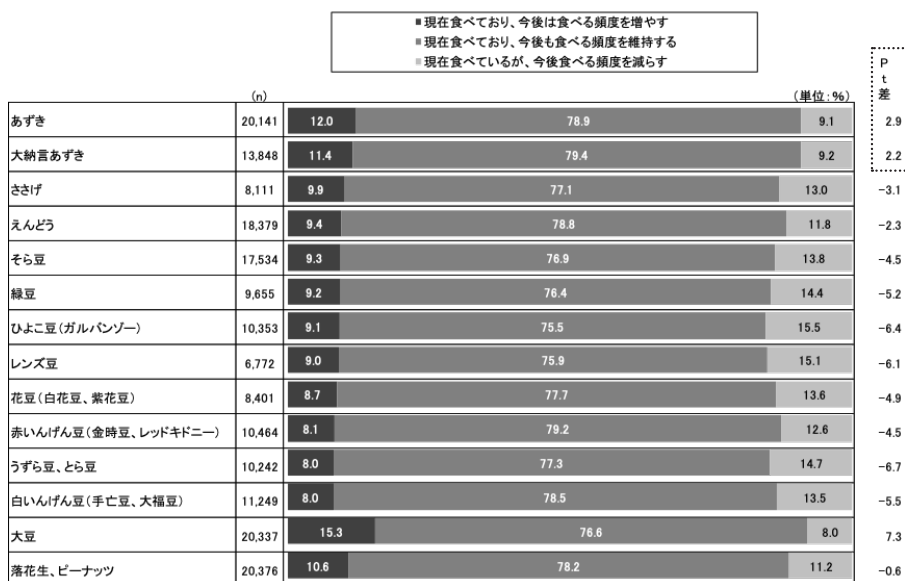


図6

6. 豆類に対するイメージ

豆類全般に対するイメージについて、全体では「栄養価が高い」が49.2%で最も多く、続いて「健康的」が46.8%、「自然な食品」が34.8%、「美味しい」が32.3%となっています。全体的にポジティブなイメージが上位であり、ネガティブなイメージでは「調理の手間がかかる」（12.5%）が9位でした。

豆類の好き嫌いの回答結果とクロス集計しました。なお、集計軸は甘味として食べることが多いあずき・大納言あずき（甘味系の豆）と、それ以外の

豆（食事系の豆）の嗜好程度としました。甘味系の豆、食事系の豆のいずれにおいても、「好き」または「どちらかという好き」と回答した人は豆類全般に対してポジティブなイメージを持つ傾向となっています。一方、「嫌い」または「どちらかという嫌い」と回答した人は、豆類に対して「美味しくない」というイメージを持っている人が多く、これは甘味系の豆、食事系の豆に共通していました。ただ、嫌いな人でも30～40%の人が「栄養価が高い」や「健康的」というイメージを持っていました。（図7）

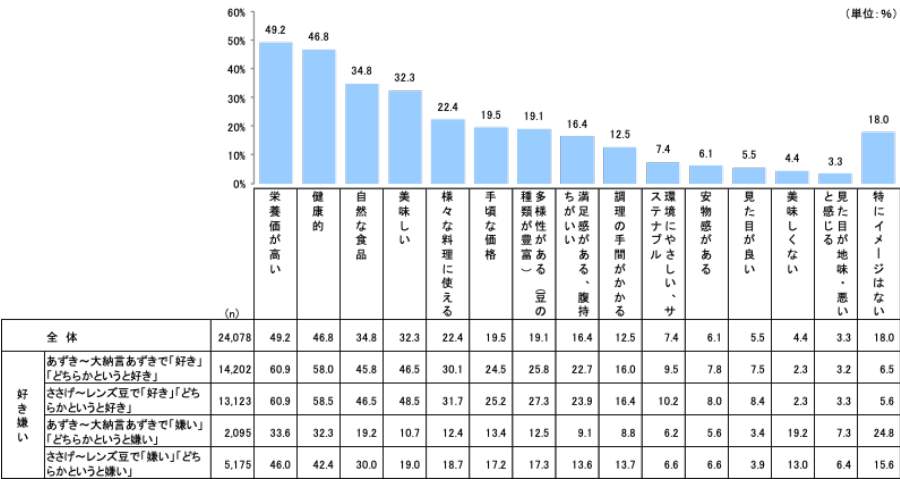


図7

●おわりに

一次調査の結果を見る限り、消費者の豆類に対する回答には我々が普段考えているイメージと大幅に違っていた点はなかったように思います。この調査結果を、今後どのように活用して豆類の認知度を高め、喫食回数を増やしてもらえるようにしていくか、業界全体で対応していく必要があると考えています。関係者の皆様に少しでも活用していただければ幸いです。

本調査の報告書（調査結果分析編、データ編）の配布をご希望の方は以下までご連絡ください。

（公財）日本豆類協会 振興部 穴井

TEL：03-6268-8627 E-mail:t-anai@mame.or.jp